

NPO法人
九州バイオマスフォーラム
理事長

吉田えりさん(33歳)

草をエネルギーに変えて農家の新しい事業を提案。自治体も動かした

熊本・阿蘇山の雄大な南山麓。その広大なスキの牧草地で、NE DO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の補助を受け、公共のレジャー施設「アゼリア21」向けに、日本で初めて草を使った発電を手がけたのが九州バイオマスフォーラム。理事長を務めるのが吉田えりさんだ。

「バイオマス」（再生可能な有機性資源）は、石油に代わる代替エネルギーとして注目を集めている。前述の発電事業は事業規模8億円。吉田さんらが、阿蘇市を動かして計画書を提出し、事業化にこぎ着けた。07年3月末に完成したアゼリア21のプラントでは、温水プールのエネルギー源に草を使用。同フォーラムはその草の採集を担当する。「阿蘇の草原

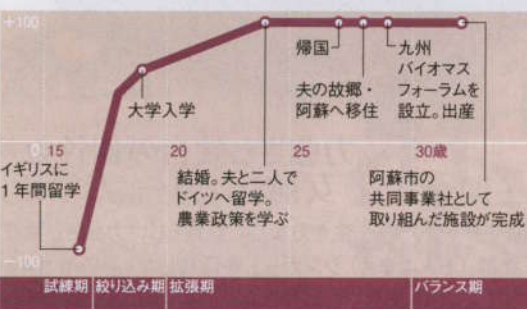
に手を入れることで、減りつつある草原の維持も図りたい」

吉田さんがバイオマスに関心を持ったのは、ドイツ留学中、日本からのバイオマス事業の視察団の通訳を務めたとき。「農家が農産物だけでなくエネルギーも生産している姿に刺激を受けた」。2歳の双子を育てながら、草のエネルギー化のほか、てんぷら油の再利用など、実演も交え一般市民に向けた啓蒙活動が続ける。05年からは、草の生産農家と草が必要な牧畜農家の仲介ビジネスにも乗り出した。根底にあるのは「日本の農業の可能性を広げていきたい」という強い思いだ。

受賞理由

- 国の補助を受けた大型プロジェクトを勝ち取る積極性
- 新しい環境で立場の異なる人を巻き込みビジネスを創出した点

28歳で阿蘇に移住。NPOを立ち上げる



74年ドイツ生まれ。慶応大学環境情報学部卒業後、阿蘇出身の夫と結婚。ドイツのミュンヘン工科大学大学院に、夫と2人で留学、農村計画学を学ぶ。帰国後の03年、阿蘇に移住。仲間とともにバイオマスの勉強会を開いたところ九州の農政局にすすめられ、九州バイオマスフォーラムを立ち上げた。④⑤ドイツで通訳をしていた20代

- 20代にしてよかったこと／留学して最先端の農村経営を学んだこと、結婚したこと
- 30代にしてよかったこと／出産したこと。子育てを経験したこと
- 仕事に役立った・人生に効いた本／「自然農法 わら一本の革命」（福岡正信著）「エンデの遺言」（河邑厚徳著）「様々な考え方を本から学んでいます」